

1. 木曾谷は南東に駒ヶ岳、北西に木曾御岳という雄大な山に挟まれた山岳地帯で、80%が森林である。鳥居峠を分水嶺として、木曾川流域と奈良井川流域に分かれるが、木曾川は濃尾平野に流れ、奈良井川は、塩尻で木曾谷を出た後、松本・長野を経て千曲川に合流する。
2. 木曾谷の森林は、江戸時代、尾張藩の領地であった。木曾の木材は昔から良質で、江戸時代の築城や造船、土木用材等、様々に利用されてきた。約100年間、木曾谷の森林は大量に伐採され続けたため、木材資源が枯渇してしまった。そこで、尾張藩は森林保護政策として「停止木制度（ちょうじゅぼくせいど）」を設け、アスナロ、サワラ、ヒノキ、ネズ、コウヤマキの伐採を禁止した。ヒノキの保護が第1目的だったが、外観がヒノキに似て、かつ利用価値の高い樹種4つも禁止木に選定された。禁止木を伐採したものへの罰は「木一本、首一つ」と呼ばれるほどで、厳罰に処された。この森林保護制度によって保護された樹種は「木曾五木」と呼ばれ、現在は木曾谷の名産品となって300余年にわたって守られてきたのが木曾五木である。（あさひねこと覚えるとよい。）

3. アスナロ（ヒバ）：ヒノキ科アスナロ属
常緑針葉樹、日本固有種
葉の裏は W,ないし WHN の文字に見える。
明日はヒノキになろうという言葉が語源
日本三大美木の青森ヒバも有名である。
成長は遅いが材質は緻密
建築材、彫刻用材



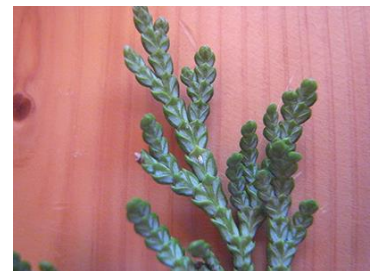
4. サワラ：ヒノキ科ヒノキ属
日本固有種
ヒノキとよく似ている。
葉の裏には模様がない。X字に見えるかもしれない。
触るとチクチクする。
耐湿性に富んでいるので桶材に用いられる。



5. ヒノキ：ヒノキ科ヒノキ属
日本と台湾に分布する。
木曾地方に分布する天然ヒノキが木曾ヒノキである。
ヒノキの樹皮は屋根の材料となる。
葉の裏に Y 字がある。
木目が緻密、光沢・香りがある。
材質が堅牢で狂いが少なく、木材の王と呼ばれる。
高建築用材



6. ネズコ（クロベ）：ヒノキ科クロベ属
常緑針葉樹、日本固有種
富山県黒部地方に多いことからクロベ（スギ）とも呼ばれる。
葉の裏には模様がない。（模様が薄い。）
ネズコ下駄が特産品、茶箆筒や天井板



7. コウヤマキ：コウヤマキ科コウヤマキ属
常緑針葉樹、日本および韓国済州島固有種
高野山に多く生息していることが語源
葉の中央に1本の線
風呂桶、水桶、流し場に利用される。

